

今回紹介する団体: 水土里ネットさいたま

取組概要

内容: 水土里情報で整備した農地筆を活用し、農地台帳の情報と地域の農業者に行ったアンケート集計結果をGISデータ化し、水土里情報システムで「人・農地プラン」の策定に向けた農地利用図の作成を行った。

経緯: 地域の農業に関し、高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加等により5年後、10年後の展望が描けない傾向がある中、将来どのような経営体を中心となって地域農業を牽引していくのかといった意見を水土里情報システムを活用してアンケート設問毎の図化を行った。

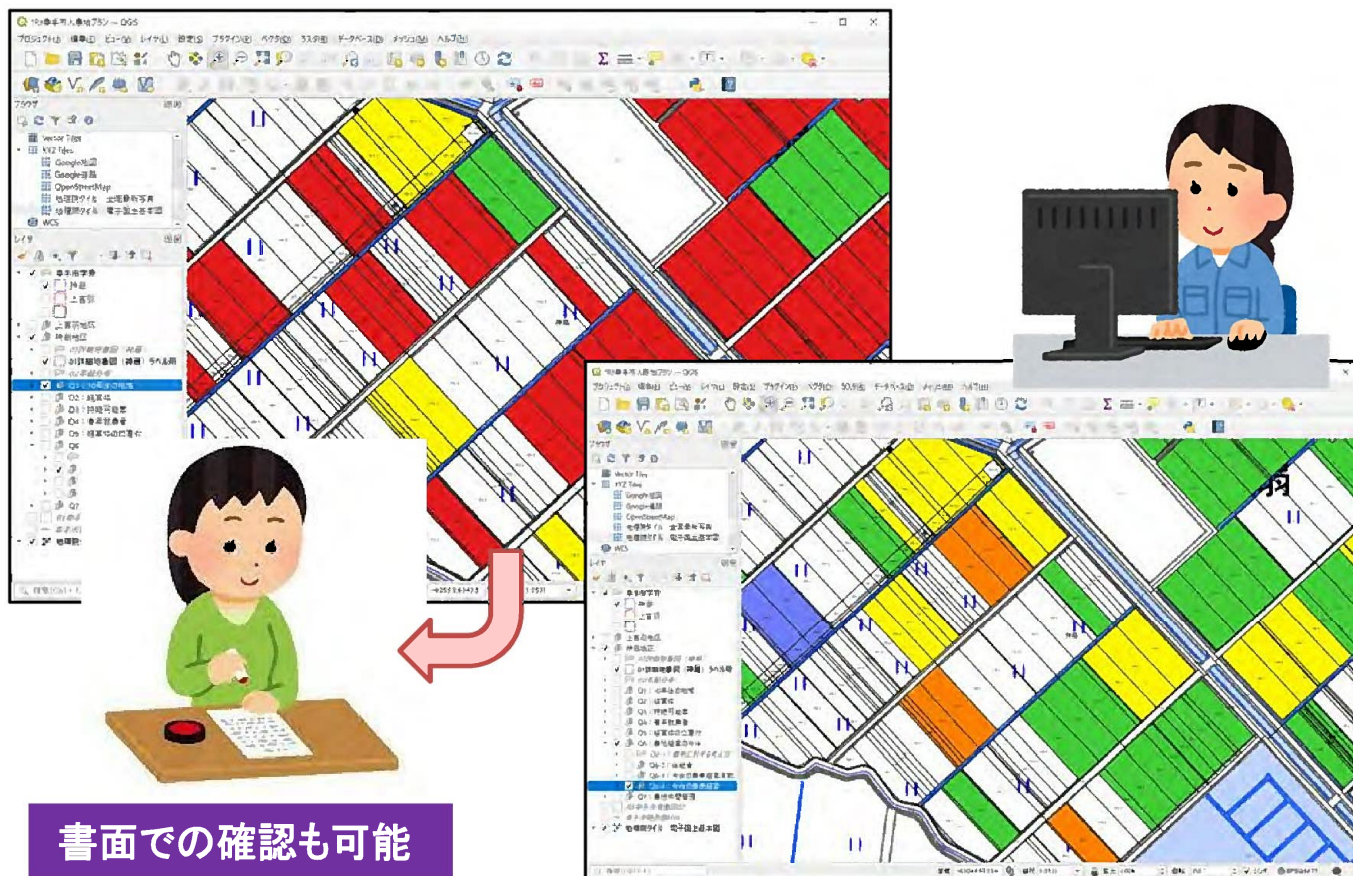
The image illustrates the workflow of preparing GIS data from survey results. It features several key components:

- Survey Form (Q&A):** A form titled "身の経営 (個人・法人・集落営農) を今後どうしていくですか。" (How do you plan to manage your business in the future?). It includes a table for selecting the successor's role and a list of management strategies.
- Spreadsheet:** A table showing the results of the survey, including the number of responses for each category.
- GIS Map:** A map showing agricultural plots color-coded according to the survey results. The legend indicates the following categories:
 - 10年から20年以内 (Green)
 - 5年から10年以内 (Yellow)
 - 5年以内 (Orange)
 - すぐにやめたい (Red)
 - 無回答 (Grey)
- Management Strategies:** A list of strategies such as "農地の規模拡大" (Expansion of farm size), "生産コストの低減" (Reduction of production costs), and "経営の複合化" (Diversification of business).

取組による効果

アンケート集計結果の農地利用図を水土里情報システムで作成することで地域全体の状況が把握しやすくなり、地域での話し合いや協議に掛かる時間が従来の半分となり、全体で10時間程度短縮できると想定されます。

今後の人・農地プランへの策定に係る業務においても水土里情報システムで作成された農地利用図を利用することにより、集積案の作成時間や各種資料の作成に流用できることから、業務に掛かる労力の軽減に繋がります。



今後の活用予定

人・農地プラン策定を検討している市町村へのPRを行い、GISデータ化と水土里情報システムの普及・推進を進め、併せて農地情報との連携や関係機関で整備したGISデータとの共有を図ります。

GISシステムのバージョン情報

GISソフトウェア：QGIS 3.16.16

■お問い合わせ先

埼玉県土地改良事業団体連合会 総務部地域支援課 (電話番号)048-530-7352